

平成28年度別海町まちづくり懇談会（尾岱沼地区）会議録

日 時 平成28年11月25日（金）午後2時～4時

場 所 尾岱沼地域センターきらくる

参加者 24名（男性20名、女性4名）

町側参加者

曾根町長、佐藤副町長、真籠教育長、竹中総務部長、河嶋福祉部長、佐藤産業振興部長、宮越建設水道部長、中谷教育部長、大槻病院事務長、下地教育委員会次長、山田福祉課長、今野介護支援課長、門脇農政課長、干場水産みどり課長、伊藤管理課長、内山尾岱沼支所長

次 第

1 開 会（総合政策課長）

2 町長挨拶（町長）

尾岱沼の皆さん、こんにちは。町長の曾根でございます。なかなか尾岱沼地区に顔を見せることができて、大変申し訳なく思っていました。今回、ようやくこういった形で、地域の皆さまと膝を交えてお話ができるという機会ができたことを、大変嬉しく思っています。

今年は、いろいろなことがありまして、一番はやはり現職の町長が5月に亡くなられたことで、町内も大変動揺、混乱をいたしました。

しかし、その中で今日控えております役場幹部の人たちが一生懸命頑張ってくれて、行政的にも、ほぼ滞りなく進めることができましたし、私も6月20日に就任して、しっかり水沼行政の後を引き継いで取り組んでいるつもりです。

初めての町長職ですので、皆さま方から見ましたら、いろいろな部分でこういうところが足りない、こうした方が良い、いろいろなご意見があるかと思います。

今日は、そういった皆さま方の考え方やご意見を拝聴できればと、そのように思っています。

私は、町長に就任するに当たりまして、3つの公約をいたしました。

1つはまず、「子育て世代の応援」ということです。私は、このふるさと別海をしっかりと守り、次の世代へとつないでいくためには、まず一番は、子どもをしっかりと地域で守る、そして育てていくことだと思っています。今、いろいろな移住促進とか、ふるさと創生とか、いろいろなことが言われていますが、このふるさとを守るというのは、ここで子どもが生まれて、ここで育て、そしてここから巣立っていく。そして、ふと自分の人生を顧みたときに、私のふるさととは別海だな、よかったな、というような想いを持ってもらえる、そのようなふるさとにしていきたいと思っています。

今、子育ては非常に大変です。所得がなかなか伸びない中で、共働き世帯も大変多くなっていますし、子どもを育てるということの苦労が、今の若い人たちには大きな負担となっている。そういったこともあって、出生率も非常に落ちています。

そんな中で、別海町は、出生率1.86人ということで、全道でも非常に高い数字を誇っています。これも、医療関係が充実していることや、一次産業の皆さん、漁業者の皆さん、農業者の皆さんが、比較的子どもを多数産んでくれている、そんなことが要因かと思いますが、それは、やはりそういった方々を地域全体で、町全体で守っていくことが必要だと思っていますし、そういう



施策についてしっかり取り組んでいきたいと思います。後ほど、福祉部長からご説明を申し上げたいと思います。

2つ目は、「老後の安心」ということです。今、水産業で150億円を超える、そして農業を合わせると650億円を超える、こういう生産を誇る日本一の町になりました。これもやはり、先代、先々代の方々のご苦労があって、その積み重ねがあって、そして今の別海町があると思っています。

私たちのためにしっかりと働いていただいた先輩の方々、今後、老後をどうやって過ごすか。そのことは、しっかりと後輩の私どもが守っていかなければならないし、そういう体制をとっていくことが、次の世代へと繋がっていくと、そのように思っています。

尾岱沼地区の皆さんには、高齢者の方々の施設というのがあまり無い状況で、これからこういった形で、尾岱沼地区の方々の高齢者のための施設整備をしていかなければならないかということも考えていますし、皆さま方のご意見があればお聞きしたいと思っています。

今、現在取り組んでいます高齢者対策についても、後ほど福祉部長からご説明申し上げます。

そして3つ目は、やはり「経済の発展」です。経済が良くならなければ、何を言ってもやはり生活が大変でございまして、別海町の650億円の一次産業の生産額を落とすことのないように、しっかり後世につなげていかなければならない。ここ2・3年は、非常に水産の方も良かったですが、今年はお聞きしますと、秋アジが非常に数量的には足りないということで、大変私も危惧しております。

私が原職の時代にも、秋アジが非常に不漁だった年がありましたが、昨年少しずつ回復してきて安心できるかなと思った矢先に、今年は非常に大きな打撃を受けたということで、やはりこれらの原因究明、そして復旧に手を付けていかなければならない、そんな思いもあります。

これらの水産関係に対する対策につきましては、後ほど産業振興部長から内容についてもご説明申し上げます。

これら3つの大きな行政の柱を中心として、一つひとつ課題をクリアしていきたいと考えています。

一遍にいろいろなことはできませんが、一步一步前へ進んでいくことが行政であり、行政の責任であると、そのように考えていますので、そういった気持ちで、今日は幹部職員を引き連れて、皆さんにいろいろな話を聞きたいということでまいりました。

皆さんと一体になって、ふるさと別海をどうやったら良くなっていくのか、どういうことに取り組んでいかなければならないのか、そういうことを含めて今日は議論ができれば、そういう機会になればと思っています。どうぞ、2時間の予定ではありますが、よろしくお願い申し上げます。



3 職員紹介（総合政策課長）

4 日程説明（総合政策課長）

5 子育て世帯を応援する取り組みについて（福祉部長）

子育て支援に関する事業につきましては、平成27年度から5カ年を計画期間とした「別海町子ども子育て支援事業計画」に基づき、施策を展開しています。

この計画は、子ども・子育て支援法に基づき、本町の子どもと、子育て世帯を対象とした施策の方向性や、目標を定めたものです。策定に当たっては、保護者の代表者をはじめ、日頃から子育てに深く関わる関係者で構成された「子ども子育て会議」の委員の皆さまのご協力を得て、広く意見を募り

策定したところです。

計画では、町立保育園、幼稚園の認定こども園への移行や、地域子ども・子育て支援事業が位置付けられており、具体的な事業を、地域のニーズや実情に応じ推進していくこととしています。

具体的な平成28年度の主な事業の展開は、まず、保育園、幼稚園に関しては、平成27年度に国において新制度が施行され、この新制度においては、保育園、幼稚園、私立、公立を問わず、保育園等の利用者負担は、所得による応能負担とされ、所得区分による国の基準が示されました。

この国の基準額を基に、町が保育料等の設定を行いますが、本町では、国の50%、半額を負担額として設定し、独自に保護者の負担軽減を図ったところです。

さらに、本年度からは、国の所得制限を設けた多子世帯やひとり親世帯への軽減措置から、さらに踏み込み、町独自の施策として所得に関係なく全ての世帯に対して、2人目を半額、3人目を無料という多子軽減措置を実施しています。

次に、子ども医療費についてですが、子どもの健康を増進するとともに、子育て世代の負担を軽減し、安心して子どもを産み、子育てができる環境の充実を図るために、本年10月から、乳幼児医療費助成の対象年齢の拡大及び所得制限を撤廃し、中学生までの医療費無料化を実施しているところです。

いずれの助成も、所得制限を撤廃したのは、所得制限により対象外となる世帯は、2世代で営む農漁業従事者が多く占められていることから、本町の基幹産業を担っている子育て世帯を支援し、担い手を増やす観点からも、所得制限を撤廃したところです。

保育園関係につきましては、本年4月から、町立の別海、上西春別の保育園2園および野付、中西別、上西春別の幼稚園3園が、就学前の子どもに幼児教育、保育を一体として捉え一貫して提供するとともに、地域の子育て支援を行う施設である認定こども園に移行し、一時預かり事業のほか、子どもの在園に関わらず、保護者の子育て相談や親子交流などの子育て支援事業を実施しています。



このほか、子育て支援事業としましては、地域の身近な場所において、乳幼児がいる家庭のお母さん方が、親子で気軽に交流できる場を提供し、育児相談、情報提供などを行う「子育て支援センターはみんぐ」の子育て支援拠点事業、妊婦健康診査事業、生後4カ月までの乳児がいる全ての家庭を訪問指導などを行う乳児家庭全戸訪問事業など、8つの支援事業を展開しています。

また、事業のひとつである、登録会員による育児支援の相互援助活動事業のファミリー・サポート・センターへの登録人数は、支援、利用者含め50名以上となり、今後の各地域への拡充を期待しているところです。

放課後児童クラブにつきましては、中央児童館、西児童館での実施に加え、中春別放課後児童クラブは、地域により運営されており、地域が積極的に子育て支援に参画していただいています。このような地域の動きを、町として積極的に支援しているところです。

今後も、地域の実情に合わせた子育て支援の展開に取り組めます。

以上です。

6 老後の安心を提供する取り組みについて（福祉部長）

高齢者福祉に関する事業につきましては、平成27年度から3カ年を計画期間とした「別海町高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画」に基づき、事業を展開しているところです。

計画では、高齢者一人ひとりが、住み慣れた地域で安心していきいきと生活を送ることができるよ

う、介護サービスの充実と介護予防の普及による生活機能の維持改善を図るとともに、地域住民や関係機関と連携し、高齢者を地域全体で支える環境づくりの取り組みを目指すほか、介護保険制度改正に伴う、要介護軽度者の入所可能な施設の不足に対応するため、認知症対応型グループホームの整備については、この計画に基づき事業者の公募を行い、サービス基盤の整備を進めました。

また、民間を含めた介護施設における職員不足の問題は、今後の町の介護サービスにも大きく影響することから、介護職員の育成と確保のため「介護職員養成研修」の開催や、受講者に対する受講料の助成をするほか、介護事業所が独自に行う人材確保の取り組みについても、助成事業を行っています。

その他、継続して、在宅の高齢者の方々が、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう「介護予防及び生活支援事業」、「緊急通報システム運営事業」などを行うとともに、一人暮らしが困難な高齢者に対しては、居住機能及び交流機能を総合的に提供する「ケアハウス」及び「高齢者生活ハウス」運営事業を実施しています。

また、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターでは、総合相談事業をはじめ介護予防ケアマネジメント事業などにより、地域において自立した生活が継続できるよう、個々にあわせた支援を行っているところです。

平成27年度には、認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分な方の権利擁護事業として、市民後見人養成研修を実施し、27名の方が受講されたところです。

この他、今後ますます加速する高齢者社会に対応するため、介護を必要とされる方々が、住み慣れた地域で安心して生活することを目的とし、社会福祉法人に対し、介護施設建設借入金償還に係る補助や、新特別養護老人ホームユニット型施設の移行に伴う利用者の負担軽減を目的として、社会福祉法人軽減の公費負担のほか、町独自の制度を設け、居住費が増額となる利用者に対しては、利用料負担軽減事業を行っています。

今後は、介護保険制度の改正に伴うサービスの展開など、高齢者を地域全体で支え、安心した老後の環境づくりに、さらに取り組んでいきます。

また、東部地区の介護施設などにつきましては、ご要望などが連合町内会の方から毎年あげていただいております。現在、介護サービスの対象となられている方、また、そのご家族に聞き取りでアンケートを実施し、この地域にどのようなサービスが地域の実情に合ったものかを検討した中で、次の介護保険計画の中に取り込む予定です。

以上です。

7 経済の成長を図る取り組みについて（産業振興部長）

水産みどり課関係と、商工観光課関係について、主な取り組みについて説明いたします。

まず、水産みどり課関係についてですが、主な事業につきましては、水産物の信頼性や付加価値向上につなげるため、尾岱沼漁港の衛生管理高度化施設整備として、北海道が事業主体となり、平成18年度から着手して漁港を整備しており、平成29年度に事業完了する予定となっておりますが、衛生管理体制をさらに推進するため、平成30年以上につきましては、また新たな10カ年計画を策定した中で、防波堤、岸壁、道路、用地などの整備を行い、流通拠点としての機能強化を目指す計画となっております。

次に、増養殖対策や付加価値向上等につきましては、本町の漁業については、根付資源の持続的な確保が基本です。資源の維持増大、そして後続資源を計画的に活用していくことが不可欠であることから、現在もいろいろな増殖事業に取り組んでおり、今後につきましても、継続して増殖対策や漁場環境の改善などの対策に努めていきます。

また、食の安全性に対する関心の高まりから、今まで以上に安全、安心な食料の供給に加え、高鮮度な商品が求められており、そういった商品の消費拡大の取り組みが重要性を増していることから、加工技術や新製品の開発など、付加価値向上により積極的な消費拡大対策や販路拡大の推進が重要です。

今後も、新商品の開発に向けた加工機器導入事業や、新商品の販売促進事業などを推進していきます。

続きまして、商工観光課関係についてですが、中小企業支援対策として、平成21年に制定した別海町中小企業振興基本条例に基づき、経営基盤安定のための利子補給・保証料補助事業や新規開業者、経営拡大に対する支援、町内企業の受注機会の確保対策として、断熱工事や省エネ機器の設置に対する補助を行っています。

また、将来の地域経済の担い手となる別海高校生の大学視察や就職支援のための中小企業者との懇談会、中小企業大学校などへの研修費の助成を行っています。

事業の内容としましては、中小企業融資として、別海町中小企業融資条例に基づき、1事業者につき運転資金として

1,000万円、設備資金として3,000万円を上限に貸し付けを実施しており、貸付利息の2%を利子補給し、保証料につきましては80%を補助しているところです。

また、新規開業者に対しては、開業資金に対して自己資金の2分の1以内で上限100万円、空き店舗利用や新分野進出に対しては、自己資金の2分の1以内で上限50万円の補助を行っているところです。

また、町内事業者の受注機会の拡大を目的として、新築または増改築工事のうち、省エネ基準に適合した断熱工事に対して、新築工事では対象工事費の20%以内で75万円を上限とし、増改築工事につきましては対象工事費の40%以内で50万円を上限に補助を行っています。

なお、平成28年度から断熱工事に併せて行う高効率給湯器、高断熱浴槽、節水型トイレ、LEDなどを補助対象に追加したところです。

今後におきましても、町長の諮問機関である別海町中小企業振興審議会からの意見を踏まえた中で、中小企業振興に取り組んでいきます。

次に、観光振興事業につきましては、本町の特産品を都市部でPRするための物産展への参加に対する補助や、ファームインなどに対応するため食品衛生責任者講習会参加費の補助を行うなど、「食観光」の充実を図っています。

また、ラムサール条約登録湿地である野付半島、風連湖におけるバードウォッチングを観光資源としてアピールするイベントにも参加し、体験型観光の充実も図っています。

今後も、多様化する観光客ニーズの把握と恵まれた地域資源の活用により、交流人口の増加を目指して、より一層本町のPRに努めていきます。

以上です。



8 懇談（上記5～7に関する事及び自由意見）

○「子育て世帯を応援する」ということで、いろいろご説明いただきましたが、私が子供を育てていたころは、スクールバスに乗れました。今、町長は酪農を守るということで、子育て支援とお話していましたが、今、私の地域でも新規就農が多く、夫婦2人で子どもを育てる家庭が多いので、高校生を朝だ

けでもいいので、スクールバスに乗せていただけるよう、町として検討願いたいと思います。上春別線や西春別線は町のバスがあると思いますが、先々代の町長の施策に戻ればというのが、1つのお願いです。

それから「老後の安心を提供する」ということで、介護職員の確保対策事業として、例えば役場職員で定年退職した人たちが、午前中又は午後の2時間でもいいので、シルバー人材でご飯の介助などのお手伝いができればと思っています。

それから、「経済の成長を図る」ということで、安心と安全と、商品の拡大をするということで、オリンピックが東京であります。例えば、尾岱沼のホタテや標津のホタテや鮭を、この根室管内、道東から発信するという発想や展開を4町の町長さんや漁協などとも話し合っていていただき、道東の食品は安全だ、美味しいということをしてPRするのにいい機会だと思っています。

(教育部長)

現在、高校生の場合は、お話の中にもありましたように、原則路線バスで。この近い所であれば、尾岱沼線、あと中標津別海間であれば根室交通ということになりますが、そのようなバスを使っているということが原則になっています。スクールバスにつきましては、そちらに接続する部分まで、小学生、中学生と共に利用いただいているという状況になります。

もちろん、小学生、中学生がいっぱいであれば乗れないのですが、そのようなバスも少ないので、その空席を利用して路線バスまで接続して乗っていただいております。その後、路線バスを活用して、通学していただいているという状況です。最寄りのスクールバスに乗っていただくという部分につきましては、路線バスとの整合性の問題などもありまして、今のところちょっと難しい状況であるというのが現状です。



(福祉部長)

本当に貴重なご意見をいただきありがとうございます。介護職員の不足につきましては、近年は、パートの方を募集しても、なかなか来てくれないという状況で、町の施設もそうなのですが、民間の施設さんも、どこもなかなか介護職離れというのがあって苦慮しているところです。今日いただいたご意見を参考にしながら、シルバー人材の活用ということについても、いろいろな面から検討させていただきたいと思います。

(町長)

オリンピックに食材を提供してはどうかという大変貴重なご提言をいただきました。実は、私もこれは町長になる前から考えていて、いろいろ情報を集めています。オリンピックに食材を提供するのは、今、明治かどこかがオフィシャルスポンサーになっていて、そこを通さないと提供できないという条件が1つあるのと、もう1つは、オリンピックに使う食材については、GAPという基準を通ってなければ使えないという仕切りがあることも情報として分かっています。既に、酪農家の中では、そのGAPを取るべく動いている人たちもいます。水産系についても、そういう条件を満たせる人たちがいれば、是非ともオリンピックで別海の水産物、酪農製品という形で、売り込みたいと思っています。先ほど言ったように、オフィシャルスポンサーがどこから食材を手に入れるかということも少し情報を集めてみないと、可能性があるのかということもまだ分からないので、そういう情報も集めている最中ですが、それと一緒に今言ったような品質規格を、国際オリンピックに適用できる品質にするように努力してい

る酪農家もおりますので、もう少しこの話を広めて、是非別海町内の食材をオリンピックに使えるようになればと思っていますので、今後は、農協、漁協とも連携をとりながら、話をもう少し掘り下げて進めてみたいと思っています。

○ここに「経済の成長」とありますが、今年、非常に秋アジが獲れませんでした。そうしたことについて、農業者の場合は、今年大雨が降って台風も来て被害が出て、そうした状況を調べられて、補助か何か手を打っているようですが、漁業者に対しては、秋アジが獲れないからどうだったという話はありません。そんな中で、網も早く揚げさせられて、まだまだ獲られない状況であります。そういった中で、せっかく上った稚魚をも持っていかれて、4年後どうしたらいいのか、我々非常に心配しています。今、このことについて、町がどのように考えているのか、そして、何か手当てがあったらいいかなと思います。非常に深刻な問題ではないかなと思っています、今後どのような対策を打ってくれるのかと、これが、一番日頃思っていることです。

（産業振興部長）

ただ今言われたとおり、ホタテの値段は良い状態であるということですが、ただ、秋サケの今年の状況からいうと、春先や秋口の高水温、度重なる台風の襲来、今までにあれほど、直接横断したことは無かっただろうと思います。河川の遡上の部分についても、かなりの大雨で復旧するのに水が引かなくて、かなり大変な状況であったと増協の方から報告を受けています。後は、皆さん漁業者が協力して丘網を早めに、漁が悪い中揚げて対応されたこと。後は、種卵の確保については、他地域からの調整というのが今後出てくるとは思いますけれども、その辺、増協の方の考え方も調整の仕方も含めて、どのようになるのか。私も役員をやっていますが、増協の理事会も今後12月初めくらいに開く予定です。そういった部分で、稚魚の確保、他からの調整の部分も含めて対応できる最善の策を講ずるしか現状ではないのかなと考えています。

○子育て支援のことで、2点質問したいと思います。私は、放課後児童クラブを、別海町の各小学校区で実施してほしいという希望があって、尾岱沼地区でも放課後児童クラブを運営するために何かできないかということで活動しています。今、中央地区と西地区、中春別の3地区に放課後児童クラブがあると思いますが、他の地区でのニーズというのは、どうなっているのかというのを1つ聞きたいということと、尾岱沼地区で放課後児童クラブを実施したいのですが、それにはちょっと費用がかかると思います。大体何人以上だったら運営できるのかということを知りたいと思います。

（福祉部長）

まず、他の地域からの要望ということですが、全町的にこの放課後児童クラブということでのアンケートなどは、まだしていないところで、ご要望の中ではそういう声はまだ上がってきません。尾岱沼地区でも是非やりたいということで、町として本当にありがたいことと考えています。人数的な制約というのは無いとは思いますが、経費などにつきましては、町の方で全面的に支援をさせていただきたいと思います。ご相談の方を是非とも福祉課の方まで来ていただければ、本当にありがたいことだと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

○ニーズ調査などを、町の方で是非やっていただきたいと思います。

（福祉部長）

中央地区のような形で町が行うという予定は、まだ立っておりませんが、中春別地区のように地域の方の力をお借りしながら、この事業については展開していただくと考えております。

（総合政策課長）

その他の方がいでしょうか。

○まちづくりの関係で、高齢者健康年齢維持のための対策として、いろいろやっていただいております、尾岱沼も公民館やきらくる、そういう形の中でいろいろサークル活動をしてありますが、今、これと併せて問題になっているのは、高齢者の運転問題です。これは、今のサークル活動と関連があるのですが、高齢者というのは、車が無ければ公民館やこういう所まで、この長い海岸線を30分も1時間もかけて歩くというのはなかなかできません。それでやむを得ず、高齢であっても車の運転をせざるを得ない。こういう形を解消するためには、やはり巡回バス。本州の方では乗り合わせ巡回交通機関など、小さな車で3人から4人を送り迎えするような方法をとっている所もあるようですが、別海町は、地域が広いためになかなか西春地区、東部、中央と3つの地域を重点的にやると言いながらも、苦慮されているのは分かりますが、これは、もう住民が理解する程度を超えています。今言った高齢者の健康維持、そして各サークルの振興は、これから高齢者社会として切っても切れない状態だと思います。それで、是非その巡回バス程度のを、尾岱沼それから美原、春別、床丹、ここの辺でも回れるようなものを、検討いただければと思っています。

それから、尾岱沼地区の排水問題ですが、これもだいぶ苦慮されているのではないかと思います。今年も、外国からの観光客も増えつつあるという中で、本当に風光明媚な尾岱沼を全世界の人たちに見ていただきたいのですが、夏場はどうしても工場排水が多くなる。一業者の手でこの排水問題を処理しようとするのは、なかなか難しいと思います。是非行政の方で力を入れていただきたい。観光客が楽しく風景を見て、地元の物産を賞味していただくためには、やはり環境だと思います。夏場は海岸線が長いのと、遠浅なため、そして湾内ということで、極端に言えば悪臭ですけれども、これが大変地域の者として頭を悩ませているので、これらを何とか漁協や業者、それから行政が一体となって、包括的な形で対応していただかないと、本当に環境問題が悪化しているので、検討いただきたいと思っています。

あともう1つ、福祉の方ですが、老人施設としてデイサービスというようなものを、何とか尾岱沼でも立ち上げていただきたい。これは、何年も前から要請で、町の方も分かりましたと、近く検討しますと言うだけなので、是非これらも本格的に地域の連町の会長などを交えて、検討いただければ幸いと存じます。

（総務部長）

尾岱沼は今、路線バスが便数は少ないですけども、朝と夕方にご利用いただける環境にはなっておりますが、もちろんなかなか自由な時間には使えませんし、朝と夕方に限られているという状況の中で、皆さんのご希望通りに運行は必ずしもされていない状況にあると思っています。また、生活バスの通過点でも通過地域でもない、公共交通機関が全く提供されていないという地域もあり、そちらの方からも、例えば通院であるとか、買い物であるとか、毎日でなくても週に1度、月に3度、4度と曜日を指定してでもいいので、何とか検討できないかというようなお話もいただいております。

そこで、最近、免許証を返納される方が増えてきているという状況で、高齢者のドライバーの方の交通手段の確保ということで、高齢者の方もしくは障がい者の方、これらの対象者の方々のご意見をいろいろ聞いて、また、ニーズ調査もした上で、具体的にどういう運行が可能なのかという検討に着手しているところです。

また、いろいろな地域でそれぞれご要望があると思いますので、それらをその方々、個々の要望に応じてすべてうまく叶えていけるということは、今後いろいろな検討が必要かと思いますが、まずは何とか実行に移すということを、最大限努力していかねばならないということで、役場内部でも検討を進めていくということにしておりますので、若干お時間をいただければと考えています。



（産業振興部長）

漁港内の排水路の部分だと思われますが、今、露出している部分と露出していない部分があり、露出していない部分については道の管理、露出している部分については町の管理となっています。現状は、その排水路については、先ほど加工排水という話もありましたが、そのほかに、道道の雨水や高台から流れてくる雨水が流れ込んでいます。それで、平成21年度に1,200万円ほどかけて、汚物、汚泥含めて撤去しました。確かにそのままにしておく状況にはなく、構造的にもかなり老朽化している部分もあります。ただ、改修するとなると、何億円もかかることから、できれば漁港工事の中でできないかというような協議もしてきました。

平成30年度以降、漁港内の高潮対策で防潮堤を設置する計画があります。漁港と民地の境界が排水路になっていますので、できれば排水路の部分と並行して防潮堤を設置していければと、道の方とも協議してきました。結果的には、漁協とも現地確認をした中では、高潮対策となると一定の高さが必要で、加工施設やいろいろな漁協の施設、それ以外に住宅地を含めて守らなければならないという部分で、今考えている設置の方向性については、漁港内の加工場であれば加工場の前、公園であれば公園の歩道の前面。要するに、排水路から若干場所によっては接近する場所もありますが、排水路と重複する場所は、はっきり言って無いです。できれば漁港の工事の中で、高潮対策の部分と併せて、同じ事業ではできませんが、今後その改修の中でできるよう今後も道とも協議をしていきたいと考えています。

（福祉部長）

デイサービスということですが、尾岱沼地区を中心とした海岸地区の介護事業の展開というのは、本当に以前から連合町内会さんからもご要望を受け、町の方でも、どのような事業の展開ができるか検討してきました。デイサービスもいろいろあるものですから、今年に入り、介護サービスの対象となられている方やそのご家族に、施設はどのようなものがあるか等、具体的なアンケートを聞き取り調査させていただいています。町としましては介護施設となると、当然介護保険料にも影響してくることから、30年度からの介護保険計画の中でしっかり地域のニーズをとらえた中で、検討させていただきたいということで進んでいます。

○話が重複してしましますが、今、バスの件で総務部長から答弁があったところですが、実はうちの走古丹町内会でも町の方に要請している事項で、いわゆるデマンドバス、生活バスということで、最近高齢者の事故が多発しているということはもちろんですが、うちの地域も人数はもちろん少なく、その中でも本当に高齢者の数が多いです。その中で、家族の中で若い奥さん方もみんな仕事に行っているの、体が空いているときには買い物とか病院の通院に送り迎えはできますが、運転する人がいない、仲間もどんどん高齢化しており、なかなか通院などで町に行くことができないということで、うちの方は特に定期バスありません。今年から、学校の方は統合になって、スクールバスで一部本別海までは乗車させてもらって、尾岱沼から別海経由のバスに乗り継いでいくという方法で認めてもらっていますが、先

ほどは特にサークル活動のことでのバスの運行ということでしたが、うちの方は生活に直結していますので、是非そういうバスの運行を、毎日でなくてもいいですし、町の財政も大変だと思うので、低料金の徴収もあっていいという思いもありますが、費用のかかることばかりで大変だと思いますが、是非小さいバスでいいので、その方法を検討していただければと思っています。

2の「老後の安心」という部分の質問になると思いますが、いろいろ老人に対する介助といいますか、そのようなことも考えているようですねけれども、自分は高齢者の仲間入り、入ってしまったと思うのですが、自分たちも健康で過ごすことが医療費の削減につながるという思いもあるので、そのような健康づくりといいますか、そのように心がけるような町の施策というのを盛んにした方がいいのではないかと。実際やっている部分もあると思いますが、そのような思いでいます。

（副町長）

バスの運行につきましては、先ほど総務部長の方から回答したとおりですが、2番目に言われた健康づくりのことも含めて。やはり高齢になってまいりますと、なかなか外に出る機会がない、そういう機会を失ってしまうということが多く、町といたしましては、外出に対する無料バスやタクシーなどを行っていますが、誰しも全般的にそれが利用しやすいかという、そうでもないということもあります。外出を促すためには、今言われたような健康維持のために、外へ出て買い物をしたり、通院に使えるようなバスの運行につきましては、積極的に検討していますので、もう少し時間をいただきたいと思います。全般的にいろいろな地域があり、いろいろな要望もありますので、どのような運行がうちの町、うちの地域にとって可能なのかということについて、少し検討させていただきたいと思います。

（総合政策課長）

それでは、ここから町政全般についての意見を伺いたいと思います。

○まず1つは、毎回お願いしていますが、床丹の前浜の海岸保全についてのお願いです。このことは、何年も前からお願いをしていますが、なかなか管轄が道や国ということで、難しい部分もあるということですが、年々時化するたびに浸食というか浜が無くなって。最初に国道を造ったときに、国道を保全するためコンクリートを入れてあるということでしたが、それがもう海の中に入っている状況です。いつ時化でもって寸断されてもおかしくない状況が、床丹の4キロくらいの間に4カ所くらいあります。前浜の部分については、前浜が無くなったことで、漁船や漁具、漁網などを置くことができず、結局操業するにしても浜に船を降ろしたり揚げたりするときに、国道を跨がなければならないので、やりたくても断念しているという状況があり



ます。護岸されているところでも、何十年も前に造った護岸なので、今の時化には対応できないのだと思います。それを越えてきて、その水が住宅などに溜まって、床下浸水や浄化槽の施設も水に埋まったりしている状況です。被害などがあるたびに、町や漁協さんの方から手当て、対策をとってもらっていますが、地域の住民にしてみれば、やはり安全で安心で、これから将来生計を立てるということが、地域づくりといった方がいいのか、結局それが床丹地域でいうと、まちづくりにつながっていく根本的な部分ではないかなと思っています。そういう状況を踏まえた中で、なかなか難しい部分もあると思いますが、早期に着工、実現ということによって、また町の方にもお力添えをいただきたいと、まず1つお願いをします。

もう1つは、避難道路の点についてです。2次避難というか、床丹地区は海岸沿いに国道が1本とい

うことで、もしそういう時化が来たら通行できない所が、先ほども言いましたが4カ所くらいあります。もしそのようなときに避難をしてもらう方は、高齢者の方も当然避難してくるので、そのようなときに体調が悪くなったり何か突飛な要件が起きたときに、道路は駄目だということになったら、行きようが無くなってしまいます。そのようなことで、ずっと何年も前からお願いをしていますが、先般、防災センターの所から、避難道路ということで測量をしていただいて、地域の人も一安心しているところですが、話を聞くと、その先の工事を進めている部分については道有林があるということで、その部分になるといろいろ大変な部分もあるとは思いますが、今後その道路を建設して避難道路として使っていくという中身で進んでいくのかと、そしていつ頃完成の予定でいるのか、話せる範囲でいいのでお聞かせいただきたいと思います。

（建設水道部長）

例年、今お話があったとおり要請をいただいている部分ですが、結論から申しますと、飛躍的に進展したという状況にはございません。昨年、海岸を所管しております北海道の方が基礎調査を前浜、床丹、それから戸春別の海岸を含めて実施しました。道の方では、早急な保全地域だということで、認知をいただいていたところです。ただ、事業的には当然補助事業という形になりますので、いろいろメニュー的には二転三転しています。昨年までは津波対策でやるのが早いという状況でしたが、今年度からは、高潮対策でやった方が早いということで、道も国の方と掛け合ひまして、どれが一番事業を完成させるための近道であるかということを検討を重ねているところです。いずれにしても、大きな事業になりますので、町長を先頭に要請活動も続けていただき、あるいは議会の後押しをいただきながら、何かと早い段階で目に見える形にしていきたいと思っています。決して不可能な事業ではないと思っておりますので、もう少しお時間をいただきたいと思います。

（産業振興部長）

先日、避難路の測量を立ち会ってもらったという部分でしたが、そこはあくまでも林業の作業路の整備ということで計画しています。町で、林道整備や作業路を整備できるのですが、目標とする行き先が町有地でなければ、町が行うことができない仕組みとなっていて、床丹の防災センターの側面と通って奥にという部分での測量は終わっています。それについては、事業主体が森林組合でやっていただいています。ただ、今年工事を発注した中では、工事業者がなかなか対応できず年度を跨ぐということになりますが、まず1.4キロメートル、道有林の方に向かって作業路の整備をする予定としています。道有林の部分につきましては、道有林をかわせば道の林道があって、4号線につながっています。林業サイドでできる部分では、道有林の手前まではやっていきたいと思っています。その後については、道有林の管理者である道に、林道につなぐことができないかという投げかけと協議をしていますが、なかなか難しいという感覚を持っています。それで、作業路等を整備して終わった後については、管理する側と協定書を結んで、避難路として使うという中身で持っていけるということは確認しています。

（総務部長）

今説明があったように、森林組合が事業主体で行っている林道と、道有林の林道、これがもう少しでつながるということですので、それを接続させて使用するというものについては、道側も協議にのっていただけたというところは、産業振興部の方でも確認をしています。実施の方法については、避難路の整備ということで、1本の路線で活用できるように作業を進めていきたいと考えています。

○昨日、あるお年寄りが病院に行ったら、病院の前がツルツルで転倒しそうだったと言っていました。

気をつけていただきたいと思います。それから、町税の見直しを町全体として検討していただきたいと思います。先ほど、役場に用事があっていろいろお聞きしたら、やっぱり無駄だなんて思いました。少しその辺を調べて、税金の使い方、有効活用を検討していただきたいと思います。それと、産業祭のときに、ある組織が肉の無料提供や牛乳の無料提供をしています。町の費用で実際どれくらいみているかわかりませんが、そのような無料提供をするのであれば、例えば、家で介護をしている方もいると思うので、そのような人たちに、100円のお菓子でもいいので、別海町からクリスマスプレゼントです。よって、「元気でね」とか「体大事にしてね」とってお年寄りの人もいただければ嬉しいと思います。そのように有効活用していただけたらということで、町税の見直しをお願いします。それから、私も役場に行く機会が多くなって、先ほども用事があって行きましたが、「ちょっとお待ちください」ではなくて、「ここで座って待っていてください」といような、町民に対する心遣いをしていただきたいと思います。あと、この間し尿処理をお願いしていて、2、3日前に来てもらいましたが、4カ所とお願いしていたのですが、来た業者の方は3カ所と聞いていたようです。きちんとした電話の対応をしていただきたいなと思います。たまたま私が居たから良かったですが、居なかったら3カ所しかしないで、来年回しになってしまうところでした。その辺のきちんとした対応も、職員にお願いしたいと思います。だんだん高齢化になってきましたから、窓口に年配の先輩、人生の大先輩の方も来ます。どこに行ったらいいか迷っているようだったら、教えてあげるとか、そういう窓口で座っている職員の方は、そういうサービスもいいのかなと思います。それで、私が今強く言いたいのは、やはり町税の有効活用の見直しを、今一度図っていただきたいと思いますということです。

(副町長)

今、一つひとつ聞いておりますと、おっしゃるとおりだと思います。1件1件についてはお答えできませんが、しっかり来客者の人が不快にならないような、あるいは怪我などしないような対応をとることと、町税の使い方については、いろいろな考え方もあるかもしれませんが、今言われたことをしっかり参考にしまして、これからまたいろいろ予算のこともやっていく時期になりますので、十分に参考にさせていただきたいと思います。特に、役場の窓口の職員のことにつきましては、町長がいつも気にしていることです。もう一度、職員に徹底していききたいと思います。

○町で、かん排事業をやっていますよね。私も手を挙げた1人ですが、何年まで続くのでしょうか。そして、水道の管も私どもの方はちょっと細いです。古い管を直すというようなことでやっていたと思いますが、水道の方は予算の関係なのかわかりませんが、なぜか立ち消えてしまいました。かん排の方はいつまで続いて、どのようになっているのかお聞きしたいと思います。

(農政課長)

北部地区の関係と思いますが、この事業は平成42年までの事業計画となっています。

(建設水道部長)

水道の管の関係でしたが、おっしゃるとおり、なかなか前に進まないというような状況であります。実は、補助メニューの中に新たな管を設置するというものはありません。大変な事業費になるものですから、今はまだ国の方と折衝をしている段階です。それでも、前に進まない状況でしたが、町長も変わって、要請活動を積極的にしていただき、開発局の方も調査に来るような状況になってきましたので、数年かけてその辺も納得いただきながら、町が負担するものは負担するというので、何とか水道管の更新についても実施をしていきたいと思っています。

○産業祭のときですが、だいぶ前になりますが、赤ちゃん連れのお母さんが、授乳させるところが無いと話していました。1つテントを設けてあげると、お母さんたちが喜ぶかなと感じました。

（農政課長）

授乳所の関係ですが、昨年も今年も、テントをミルク王国の後ろ側、あまり目立たない所にテントを設けて、ご案内しているところです。

○町内会の方から願います。恒例で毎年、町長に尾岱沼町内会より、施設、道路について要請を行っています。昨年、前町長が体調不良であったため、書面でもって要請をあげています。12月に入って、大変町長も忙しくはなるかと思いますが、町長の動向を見ながら、連町の数名で改めて要請に行きたいと思しますので、よろしくお願いします。

（総合政策課長）

要請につきましては、総合政策課が窓口になりますので、日程調整をさせていただいて対応したいと思いますので、よろしくお願いします。他になければ、若干早いですが、最後に町長の方から閉会に当たっての挨拶を申し上げたいと思います。

（町長）

2時間にわたりまして、ご熱心なご意見等いただきまして大変ありがとうございます。私はあまりお答えをしませんでしたが、デマンドバスについても、それから尾岱沼地区のデイサービスの関係の施設についても、私の方から就任してからすぐに、担当の方に早急に取り組む検討に入るよう、指示を出しております。しっかりと一つひとつ取り組んでいきたいと思っていますので、もう少しお時間をいただきたいと思っています。

それから、なかなか町長の日程がつかめないという話で、私も、役場の町長は役場の椅子に座っていればいいというものではなくて、やはり別海町のセールスマンだと思っていますので、できるだけこの町を道内全体に、そして全国に売り歩いていく、北海道に別海町あり、農業と水産の650億円を誇る生産額を持っている町がありますよ、こんな良いものがありますよ、というようなことをしっかりと売り込んでいくことが、私の仕事だと思っています。

いろいろな形で努力していきたいですし、取り組んでいきたいと思っております。そんな意味では、なかなか地元に居ないということもありますけれども、優秀なスタッフがこのようにたくさんいますし、どんどんこちらの方に言ってきていただければ、すべて町長の耳にも入るようになっていきますので、私の方で受け止めてどう対応していくか一つひとつ検討していきたいと考えています。



要請等につきましてもどんどん来ていただいて、ただ、できないものはできないと言います。高潮対策についても海岸保全についても、別海町でできないものですから、道がやらなければ、腰を上げなければ、なかなかできないということもあって、こちらとしては、道に腰を上げろと突つつくしかない状況ではあります。しっかりと、そこは道のお尻を叩くというようなことをやっていかなければならないと思っています。

尾岱沼地区にはなかなか顔見せすることができないことと、行政的に取り組む課題が難しいというよ

うなこともあります。水産の方につきましても、秋アジの対策というのはなかなか良い案が出てきません。漁協、それから増協等としっかり議論して、こういうことをやりたい、ということがはっきりすれば、どんどん取り組んでいきたいと思います。今のところ、これが良い、こういう対策が良いというのがなかなか出てこないの、まず原因究明と対策をしっかりと探し出す、それから対応していくというような体制をとっていきたいと思っています。

今年は幸いにして、秋アジは不漁でしたが、農協それから漁協とも目標数値はクリアできたというようなお話を伺っております。さらなるふるさとが、健全な発展をしていくように、また一次産業がしっかりと後世の代につないでいけるように、私どもも取り組んでいきたいと思っています。

締めになります、尾岱沼地区の皆さんに今後ともご理解をいただいて、町行政いろいろな意味でご意見をいただきたいと思いますし、ご協力もいただきたいと思います、そんなことをお願い申し上げて、簡単ではございますが、締めのご挨拶をさせていただきます。今後ともどうぞ一つよろしくお願い申し上げます。今日はありがとうございました。